

対象年度		令和 2年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		重要無形文化財結城紬伝承事業						予算事業名		重要無形文化財伝承事業費			
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	文化財保護法、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律			
				10	05	06	2006	政策経費					
総合計画体系		3歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)						事業の区分		主要事業			
		3-5つちかわれた技術を継承する伝統産業の振興(伝統産業)											
		①伝統工芸の保存・伝承						担当課係等		生涯学習課			
1結城紬の保存・伝承													
事業期間		継続 (平成23年度～令和 2年度)											
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】						
本場結城紬技術保持者の後継者育成と併せ、技術保持者の技術向上を図ることにより、結城紬を後世まで伝える。							本市代表する伝統産業であり、重要無形文化財にも指定される結城紬であるが、需要減少に伴い、製作者の減少傾向や高齢化が危惧される状況にあることから、伝統技術を保存・継承及び後継者を育成するため、国の支援(補助金)制度を活用した事業として開始された。						
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】							【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】						
・事業規模：全額国庫補助金10,300千円(市予算計上はなし)							・重要無形文化財結城紬						
・伝承者養成事業の実施							・本場結城紬技術保持会 ※補助金受入先…国からの直接補助						
保持会員が後継者である伝承者にマンツーマンで指導を行い、年度内に保持者・伝承者ともに反物を制作する。							・本場結城紬技術保持者及び技術伝承者(研修生)						
・研修生養成事業の実施							【事業をとりまく環境の変化】						
結城紬制作経験の少ない研修生を募集し、保持会員が交代で糸つむぎ・機織りの基礎を指導する。							結城紬は、昭和31年に国の重要無形文化財の指定を受け、日本を代表する伝統工芸の一つとして高い評価を受けてきた。しかし、昨今の生活様式の変化や景気不振、さらに後継者不足による生産者の減少により、生産量は最盛期の2割以下に落ち込むなど、その伝承・保存が危惧されている。重要無形文化財結城紬伝承事業では、結城紬の伝承・保存を目的とし、技術者の養成に努めている。						
・講習会の実施及び啓発													
一般向けの糸とり講習会の開催や成果品の展示・貸出を行い、結城紬の保存に向けたPR周知を行う。													
【令和 2年度 事業内容】				【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】					
・伝承者養成事業の実施				・伝承者養成事業の実施				・伝承者養成事業の実施					
・研修者養成事業の実施				・研修者養成事業の実施				・研修者養成事業の実施					
・講習会の実施及び啓発活動				・講習会の実施及び啓発活動				・講習会の実施及び啓発活動					
■事業費													
				H30年度		R01年度							
財源内訳	国庫支出金			0		0							
	県支出金			0		0							
	地方債			0		0							
	その他			0		0							
	一般財源			0		0							
歳入計(千円)				0		0							
歳出内訳	節(番号+名称)				金額(千円)		金額(千円)						
歳出計(千円)(A)				0		0							
伸び率(%)													
備考	総合計画109ページ 予算書 - ページ												

平成30年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H30年度	R01年度	R02年度
活動 指標	技術保持者・伝承者による反物・帯制作	反	目標	12.00	9.00	8.00
	伝承者・研修生の技術指導のために、研修で作成した反物・帯。		実績	9.00	0.00	0.00
	講習会等	回	目標	10.00	8.00	8.00
	糸つむぎの講習会を開催し、より多くの人の糸つむぎ技術の習得に繋げる。		実績	6.00	0.00	0.00
成果 指標	本場結城紬技術保持会会員数	人	目標	88.00	89.00	84.00
	後継者を育成し、本場結城紬技術保持会会員の増加に繋げる。		実績	88.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	結城市の貴重な文化財である、重要無形文化財結城紬の伝統的な制作技術は後世に残す必要があるが、技術保持者の高齢化が進んでいるため、後継者の育成は急務である。
妥当性	実施主体の妥当性	B どちらとも言えない	団体経営による履行が望ましいが、事務手続き等が複雑なため、行政が対応する必要がある。
	手段の妥当性	A 妥当である	技術者の高齢化に伴い本場結城紬技術保持会の会員数は減少しているため、後継者を育成し増加する必要がある。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	事業に係る費用の全額を、国から団体への直接補助金により運営している。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	公募の上、面接により研修生を選定している。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	本場結城紬技術保持会会員の減少は会員の高齢化により避けられないが、後継者は着実に増加している。また、保持会員になるためには技術習得してから年数を要するため、すぐには会員数の増加には反映されない。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	後継者育成は順調であるが、原料や制作器具の購入が難しくなっていること、また反物生産数の減少に伴い、後継者の就職先確保などが課題となっている。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
平成30年度より新しくり研修を開始し、機織り、糸つむぎ、新しくりと結城紬の三工程とも後継者の育成は順調に行われている。ただし、技術保持者と認められるまでに年数を要するため、本場結城紬技術保持会の会員数は減少傾向にある。事業を全額国庫補助で実施していることもあり、補助がなくなった際の対策も考えておく必要がある。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
後継者育成だけでなく、就職先の確保を行っていく。 伝承事業以外の補助事業の把握に努める。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了	改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 重要無形文化財である結城紬について、長期的に後継者育成を図りながら技術保持者の増加に努め、結城紬の技術の伝承を推進していく。
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了	企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。